

表 2 「代表的恵迪寮生」列伝（未完）

明治 29 年入寮、伊藤清蔵（イトウキヨゾウ）、1875 年、山形県生まれ

1900 年札幌農学校卒業、同校助教授を経て盛岡高等農林学校教授として農業経営学を講じ、わが国初の農業経営学の教科書を出す。ボン大学に留学。

1909 年、研究成果を実地応用するためアルゼンチンに移住、7500 町歩の大牧場を開設。

1941 年没。明治 32 年制定の「寄宿舍規約」の起草委員（6 名中の筆頭）

明治 40 年入寮、坂村 徹（サカムラテツ）、1888 年、広島市生まれ

1913 年東北帝大農科大学卒業、植物生理学を専攻、理学博士、日本学士院会員。

農学部教授から新設の理学部に転じ、わが国の植物遺伝学の先駆的研究を続ける。

理学部長を勤め、1952 年退官、1976 年文化功労者、1980 年没。

恵迪寮の委員を勤め、開識社で報告（その報告を聞いて寮生木原均が小麦の研究に入る）

明治 43 年入寮、横山芳介（ヨコヤマヨシスケ）、1891 年、東京神田生まれ

1910 年東北帝大農科大学予科入学、12 年「都ぞ弥生」、14 年遠友夜学校のボランティア、

1917 年農科大学農学科（工芸作物学講座）卒業、1918 年静岡県農会技師、

1924 年静岡県小作官任命、1937 年肺結核で病臥、1938 年没。

寮歌作詞のほか寮の委員を勤めた。1957 年寮の南側に「都ぞ弥生」の歌碑建立。

なお、戦中、戦後期の候補（仮）

切替辰哉、「湖に星の散るなり」作詞、岩手医大、神経精神科

安井 勉、北大名誉教授（畜産学）

四方英四郎、北大名誉教授（植物ウィルス病学）

太田原高昭、北大名誉教授（農業協同組合学）